

学校だより



令和4年度学校評価アンケート結果について

きょうとう あさくら くみこ
教頭 朝倉 久美子

12月に実施いたしました学校評価アンケートについてご報告いたします。16の項目について4段階で評価していただきました。各項目の回答平均値は裏面の表のようになっております。今年度、保護者の皆様からは4.00満点中3.58点をいただきました。この点数は昨年度と同じです。また保護者評価と職員評価を比較すると保護者評価が職員評価を全体的に上回りますが、評価は相似していることから、保護者職員間の評価感に大きな乖離はないと思われま

す。今年度は昨年度以上に感染症への対策も整い、年度半ばからは3年近くに渡り登校できなかつたB課程の児童生徒の一部も登校できるようになっています。通学生に所属する部門課程(B一部・E・F・G)の職員は、新たな計画のもと、実際に地域へ出かけたり小・中・高等学校と交流したりすることを模索し、保護者側もそうした学習を期待していらっしゃるということが伺えます。通学ではない部門課程(B一部・C・D)の職員にとっては、今年度は間接的な交流(オンラインなど)を増やし、新たな学習スタイル(iPadとTV、PCを使用した学習)・学習ツール(新たな学習アプリなど)を駆使することへの挑戦となりました。昨年度以上にICTを活用した授業の実践に繋がっています。しかし、残念ながらICT活用については昨年度に引き続き保護者評価の低い項目でした。次年度は、感染症等の状況、学習のねらい、内容、子どもたちの実態やニーズにあわせつつ各部門課程での取組をより深化させ、情報を共有し、良い取組を融合させていくとともに、保護者や地域等へもお伝えしていく工夫をしていきたいと考えています。

保護者の皆様におかれましては、お忙しいところアンケートにご協力いただきありがとうございました。

「進路の取り組み」について

しんろたんとう いのうえ ふたば
進路担当 井上 二葉

進路に関しての取り組みは、サポート・スタディグループの教員が一丸となって「作業学習」「校内実習」「現場実習」「進路説明会」「進路学習会」「施設見学会」など、進路選択へ繋げていく進路支援の取り組みをしています。

「校内実習」「現場実習」は、高等部の取り組みと思われがちですが、秦野養護学校では小学部や中学部も学校生活の中で高等部の実習に向けた練習をしています。まずは、「身だしなみ」「あいさつ」「返事」の基本を学習しています。実際に作業を行う際も学部に応じて、どんな教材が良いか、〇〇の力をつけて欲しいなど、教員で話し合っています。「軍手をつけることができた」「授業の準備が早くなった」「実習で元気なあいさつが褒められた」など、児童生徒のみなさんの成長を日々感じています。

保護者の皆様を対象とした「進路学習会」「進路見学会」では、高等部卒業後の生活を見て、聞いて、知っていただくことを目的に取り組んでおり、「進路見学会」では、秦野市を中心に企業や福祉事業所の見学を実施しています。秦野養護学校の卒業生が働く様子を見ていただき、高等部卒業後の進路選択の幅を広げるきっかけづくりとなれば…と考えております。

「進路は高等部から」というイメージをぜひ変えていただき、これをきっかけに、進路への取り組みを今から始めてみませんか。



質問への回答点数...4でできている 3ほほできている 2あまりできている 1できている 0知らないわからない無回答

学校目標	質問項目	職員 平均点	保護者 平均点	保護者 わからない
自立と社会参加をめざし、一貫性・系統性のある「秦野らしい」教育課程の整備とそのしくみの確立、および専門性維持向上のための取組を進める。	1 地域を教育の場とし、地域の方とふれあう教育活動を行っている。	3.27	3.39	13.9%
	2 小中高の一貫性を持ち、知肢病3つの教育部門のある総合的な特別支援学校であることを活かした学習内容になっている。	2.95	3.55	13.9%
	3 専門性の向上のための取組や教員同士の学び合いなど、組織的な授業改善を進めている。	3.32	3.67	20.3%
児童生徒の個性を尊重し、多様な教育的ニーズに配慮しながら、「自己実現」と「共生」をめざした指導・支援を組織的に行う。	4 職員がそれぞれの専門性を発揮し、多面的に児童生徒の実態を把握している。	3.38	3.67	6.3%
	5 児童生徒の「さん」付け呼称やジェンダーフリーなど、児童生徒一人ひとりの人権を尊重した指導を行っている。	3.29	3.78	2.5%
	6 近隣の買物学習、近隣施設や公園、畑の利用などで地域住民と交流したり、部門間で交流したりすることを積極的にしている。	3.09	3.49	9.5%
児童生徒一人ひとりの「夢の実現」や主体的な進路選択に向けて、障害特性や発達段階に応じた指導・支援を、保護者や関係機関との連携の下で進める。	7 生活年齢や発達に合わせ、小中高のつながりや前籍校等との引継ぎ、障害特性を踏まえた授業を計画し行っている。	3.33	3.60	8.2%
	8 地域や企業と連携を図り、現場実習等を活用した児童生徒の将来の自立に向けた授業を実践している。	3.30	3.59	12.7%
	9 適切な進路選択につながるよう、進路見学や面談、進路説明会等をとおして、保護者や児童生徒が求めている進路に関する情報を提供している。	3.26	3.59	7.6%
他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて、支援教育及びインクルーシブ教育を「地域とともに」推進する。	10 地域、保護者、福祉機関、企業、ボランティア等との協働による学校運営の推進に取り組んでいる。	3.25	3.47	15.2%
	11 自治会等との交流や小中学校の居住地交流、地域の学校との交流及び共同学習に取り組んでいる。	3.04	3.34	21.5%
	12 ICTを活用した学習、オンラインで他校や他機関と交流や学習を積極的に行っている。	3.16	3.30	24.1%
保護者、地域、関係機関等から「信頼される学校」をめざし、児童生徒が安心して過ごせる教育環境を整備する。	13 保護者が子どもたちを学校に通わせたいと思う学校となっている。	3.33	3.68	3.2%
	14 職員は保護者に丁寧な対応をしている。	3.59	3.77	2.5%
	15 学校は児童生徒が安全で安心して過ごせる環境を整えている。	3.33	3.71	2.5%
	16 学校は事故不祥事防止にしっかりと取り組んでいる。	3.50	3.69	7.6%
	平均点	3.27	3.58	10.7%

